

(3) 学校等における子どもの読書活動の推進について

① 幼稚園・保育所・認定こども園等の取組

○ 「長崎県の子どもにすすめる本 500 選 精選版」の選定と広報

・乳幼児版リストを新たに作成し、各幼稚園等へ配布し、活用を促しました。

【長崎県の子どもにすすめる本500選】精選版（乳幼児）①									
番号	ISBN	書名	著者名	出版社	出版年	2022年	2021年	2020年	2019年
1	4-404-00101-0	うしろのいらいば	松本 美津子	講談社	1981.0			○	
2	4-589-01140-0	あそびのこ							
3	4-60009-401-0	たまたま							
【長崎県の子どもにすすめる本500選】精選版（乳幼児）②									
番号	ISBN	書名	著者名	出版社	出版年	2022年	2021年	2020年	2019年
4	4-6040-0002-0	てんてん							
5	4-6040-0270-1	つんてん							
6	4-604-02000-0	はらへこ							
7	4-721-0001-0	しんてん							
8	4-6040-0002-7	あそびのこ							
9	4-6040-0002-7	あそびのこ							
10	4-6040-0002-7	あそびのこ							

○ 保護者に対する家庭読書の啓発

・家庭で読書に親しむことのできる意義や大切さを、定期発行のフリーマガジンに掲載し情報提供しました。

子育て応援フリーマガジン「ココロン」2022年11月号 長崎県青少年育成県民会議作成

○ 幼稚園教育要領等に基づいた、読み聞かせなどの絵本や物語に親しむ活動の充実

・巡回指導で各園の読書活動や絵本コーナー整備状況を取り上げて、工夫点を認め助言して、意識付けを図りました。

○ 幼稚園・保育所等教職員の資質向上

・幼稚園等新規採用教員研修の中で、絵本の読み聞かせ等に関する講義を行いました。（長崎県教育センターと連携）

幼稚園等新規採用教員研修での取組

「長崎おはなしの会」に「絵本・おはなしを楽しみましょう」というテーマについて、お話をいただきました。

受講者は、絵本の持ち方やページのめくり方等、絵本を読み聞かせする際に心がけるポイントについて、講師の実演により実践的な学びを得ました。



② 小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校の取組

ア: 読書習慣の形成に向けた読書機会の確保

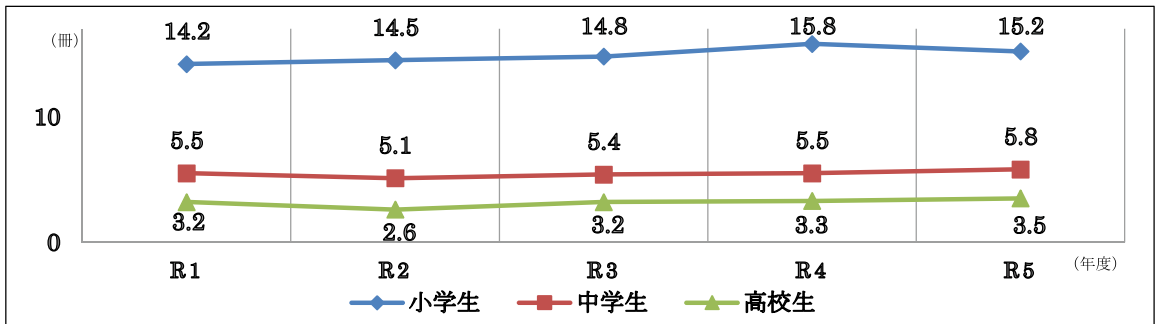
◎ 発達段階ごとの状況把握

<児童・生徒の不読率(1か月に本を1冊も読まなかった者の割合)>

年度		R1	R2	R3	R4	R5
小学生	本県	0.2%	0.2%	0.2%	0.1%	0.1%
	全国	6.8%	—	5.5%	6.4%	7.0%
中学生	本県	1.0%	0.5%	1.7%	0.6%	0.4%
	全国	12.5%	—	10.1%	18.6%	13.1%
高校生	本県	12.3%	12.6%	11.4%	13.0%	14.0%
	全国	55.3%	—	49.8%	51.1%	43.5%

「読書の現状に関する調査・読書量に関する調査(県教委)」

<児童・生徒の1か月の読書量(冊)>



「読書の現状に関する調査・読書量に関する調査(県教委)」

◎ 学校図書館を活用した学習活動の計画的な実施

- ・学校司書連絡協議会²⁰等で、授業における利活用をはじめとする図書館利用促進の取組について実践事例を共有し、さらなる活性化に向けた意見交換を行いました。
- ・教育課程に学校図書館の活用を位置付け、学校図書館を活用した学習活動を計画的に実施するよう指導・助言を行いました。

<「学校図書館教育全体計画」の策定率>

年度	R1	R2	R3	R4	R5
小学校	99.7%	100%	99.7%	100%	100%
中学校	82.2%	82.0%	82.1%	82.7%	89.3%

「学校運営に関する諸調査(県教委)」

<授業において学校図書館・図書資料を月4回以上活用した学校の割合>

年度	R1	R2	R3	R4
小学校	71.3%	72.2%	71.3%	72.7%
中学校	27.9%	32.1%	22.0%	22.0%

「学校運営に関する諸調査(県教委)」

²⁰学校司書連絡協議会: 高校教育課が配置している県立高校の学校司書を対象とし、学校図書館の運営や県立図書館との連携等に関する講義や、学校司書間の情報交換を行うもの。

○ 発達段階に応じた読書指導の計画的な実施

- ・授業改善研修会や研究指定校、各種研究大会において、学習指導要領の確実な実施を働きかけました。また、国語科における資質・能力の向上のために、並行読書や関連図書、新聞の活用が有効であるとの指導・助言を行いました。
- ・「学びの活性化」プロジェクトを通して、読書を含んだ家庭学習の意義を実践モデル校において研究しています。各実践モデル校で読書習慣の形成を目指した取組を実践中です。

○ 全校で取り組む読書活動の継続的な実施

- ・朝の時間における全校一斉読書活動や図書ボランティアによる読み聞かせの機会を定期的に設けるよう働きかけました。

○ 「長崎県の子どもにすすめる本 500選 精選版」の選定と広報

- ・年度当初に県内全小学校1年生を対象に精選版を配布し、読書の習慣付けを行いました。

県生涯学習課 Web サイトに掲載しています。

○ 子どもたちが読書に親しむきっかけづくり

- ・中学生を対象とした「長崎県中学生ビブリオバトル大会」を実施するとともに、「高校生が選ぶ友だちにすすめる本」を募り、ポスターを作成して読書に親しむきっかけづくりを行いました。

県内各地域からバトラー（出場者）が集まり開催しました。バトラーにとっても、参観者にとっても、新たな本を手にとってみようとするよいきっかけづくりとなりました。

県内高校生の読書活動をリードする「長崎県高等学校文化連盟図書専門部」の生徒実行委員の皆さんによる推薦本です。

- ・司書教諭²¹等研修会などにおいて、読書集会（本の読み語りやおすすめの本の紹介等）や読み聞かせ、ビブリオバトル等の実践発表の場を設けました。

<p style="text-align: center;">黙読の時間</p>  <p>週3～4日、始業10分間に実施。開始前に放送部生徒によるアナウンスと音楽（録音）を流し、図書委員が教壇で読みリードします。 （県立西陵高等学校）</p>	<p style="text-align: center;">しおりコンテスト</p>  <p>図書室で本を借りた児童が参加できるイベント。児童作成のしおりを展示し、図書委員による審査と表彰を行いました。 （佐世保市立山手小学校）</p>	<p style="text-align: center;">ビブリオバトル大会</p>  <p>お気に入りの本を図書室で選び、紹介文を書いてプレゼンテーションをしました。生徒たちの熱い思い溢れるバトルとなりました。 （県立佐世保特別支援学校）</p>
<p style="text-align: center;">新聞を活用した取組</p>  <p>教師のおすすめ記事を読むことでまとめ方に触れたり、同世代の投書を読んで表現の工夫や考え方を知ったりすることができます。 （県立ろう学校）</p>	<p style="text-align: center;">出前図書</p>  <p>図書委員が選んだ図書館の本を、サンタクロースに扮した生徒が持って教室を回り、生徒に貸し出す活動を実施しました。 （県立佐世保工業高等学校）</p>	<p style="text-align: center;">図書委員による読み聞かせ</p>  <p>「図書室に来て本を借りてほしい」という思いから実施。本との新たな出会いや図書室来室へのきっかけづくりになりました。 （長崎市立朝日小学校）</p>

○ 特別支援学校における障害特性に応じた図書整備

- ・点字図書や大活字本、デイジー図書、音が鳴る本、拡大読書器、デイジー図書再生機器²²等、障害の種類・程度に応じた図書や機器の整備を行いました。
- ・司書教諭、学校司書を対象とした研修会等で、障害特性に応じた読書活動の促進を呼びかけました。

²¹司書教諭：学校図書館法に定められた、学校図書館の専門的職務を担う教員。教諭として採用された者が学校内の役割としてその職務を担当し、学校図書館資料の選択・収集・提供や子どもの読書活動に対する指導、さらには、学校図書館の利用指導計画を立案し、実施の中心となるなど、学校図書館の運営・活用について中心的な役割を担う。

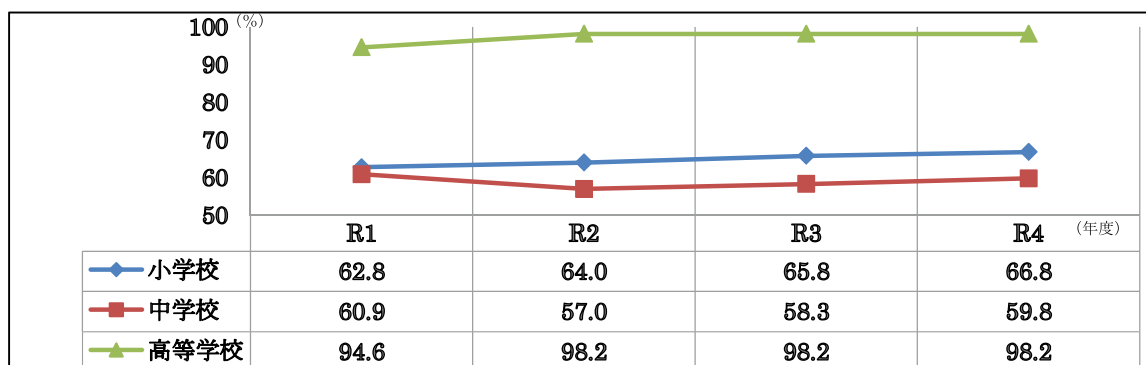
²²デイジー図書再生機器：デイジー図書を再生する際に利用する機器。また、「サピエ」などのオンラインサービスに対応しており、パソコンを使わずに、「サピエ」に所蔵しているデイジー図書を楽しむことができる。

イ:学校図書館の整備充実

◎ 学校図書館資料の計画的な整備

- ・学校図書館の蔵書数が「学校図書館図書標準」等による標準冊数を満たすよう市町教育委員会へ働きかけました。
- ・県立学校においては、学校図書にかかる経費を各学校へ配分するとともに、図書館用A/Vソフト購入に要する予算を特別に措置しました。

＜「学校図書館図書標準」等による目標蔵書数達成学校の割合＞



「学校図書館図書標準達成状況調査(県教委)」

○ 学校図書館機能の充実

- ・学校図書館の積極的な活用を促進するため、市町教育委員会を通して、学校図書館の計画的な環境整備や、学習活動における学校図書館の利活用について働きかけました。
- ・学校司書連絡協議会で、各校の図書館の棚の様子や特設コーナーの設置状況等を報告し、工夫している点や選書の状況について情報共有を行いました。

学校図書館環境整備



季節に応じた展示物で迎えるよう、定期的に図書館出入口の装飾を工夫したり、教科書関連コーナーを設置し、子どもも教師もすぐに活用できるようにしています。

(佐々町立佐々小学校)

市立図書館との連携



佐世保市立図書館に、授業に必要な資料の送付と、数人の司書の来校を依頼し、調べ学習の方法を学びました。

(佐世保市立吉井南小学校)

1人1台端末の活用



児童や職員が利用できるクラスルーム「てぐまことしょかん」をクラウド上に作成し、情報の発信基地としています。授業で使いたい蔵書の検索や資料の収集ができるようにしています。

(長崎市立手熊小学校)

ウ:学校内の協力体制の整備

○ 司書教諭・学校司書等を中心とした全職員で取り組む体制づくり

- ・各学校に学校図書館教育を担当する分掌を設置し、司書教諭や学校司書と連携しながら読書活動を推進するよう働きかけました。
- ・県の読書に関する活動や現状、司書教諭の業務、児童生徒の実態に応じた図書や読書活動の実施方法などについて、司書教諭等を対象に研修を行いました。

○ 司書教諭等を対象とした研修の充実

- ・学校図書館の円滑な運営のために、初めて司書教諭となった職員等を対象に研修会を行いました。また、学校図書館のさらなる活性化に向けて司書教諭をはじめ学校司書や図書ボランティア等を対象とした学校図書館運営に関するスキルアップセミナーを実施しました。

○ 学校司書等(学校図書館業務に携わる職員)の配置促進

- ・小・中学校における学校司書等の配置拡大を市町に働きかけ、配置率が年々増加しました。
- ・県立高等学校における学校司書等の配置により、学校図書館の貸出冊数や利用者数が増加し、学校図書館が活性化しました。

<学校司書等の配置状況>※複数校兼務を含む。

		R1	R2	R3	R4	R5
公立 小・中学校	学校司書等の数	231人	229人	231人	228人	221人
	(配置校数)	(422校)	(418校)	(414校)	(411校)	(422校)
	配置率	85.3%	85.1%	85.9%	86.0%	89.4%
県立 高等学校	学校司書等の数	57人	55人	53人	55人	58人
	(配置校数)	(47校)	(49校)	(49校)	(52校)	(53校)
	配置率	83.9%	87.5%	87.5%	92.9%	94.6%
内、※専任職員の数		31人	31人	35人	37人	35人
	(配置校数)	(25校)	(29校)	(33校)	(35校)	(33校)
	配置率	44.6%	51.8%	58.9%	62.5%	58.9%

「学校司書等配置状況調査・図書館運営に関する調査(県教委)」

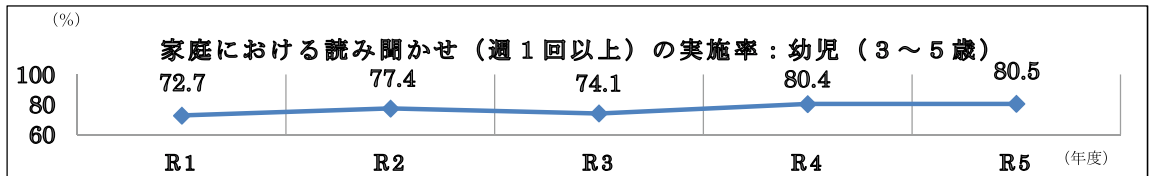
※専任職員とは、「専ら学校図書館に関する業務を担当する職員」をいい、「週5日間の就労に対し、3日以上勤務」をしている職員を指す。

2 第四次計画期間における課題

(1) 家庭における子どもの読書活動の推進

- 幼児期に読み聞かせに取り組む家庭の割合は、徐々に改善しているものの、約2割の家庭では実施できていない状況です。また、読書関係者等からは、家庭における読書活動が二極化傾向にあるという指摘があります。

<「家族10分間読書運動」の推進>



「家庭における子ども読書活動の実態調査（県教委）」

- 子どもたちが家庭で読書や文字に親しむ環境は、全国との比較において十分とは言えない状況があります。

	長崎県	全国
小学生の家庭の蔵書数101冊以上の割合	26%	33%
新聞を週1～3回読んでいる小学生の割合	11%	13%

R5「全国学力・学習状況調査（文部科学省）」

- このような状況を踏まえ、本県における子どもの読書習慣の形成には、乳幼児期の段階から、様々な関係機関や団体等がつながり、家庭を支援していくことが重要です。また、保護者自身が読書の楽しさを実感できる機会の提供についても検討していく必要があります。

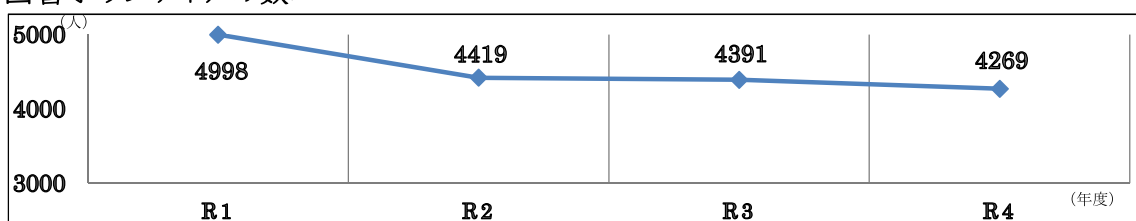
(2) 地域における子どもの読書活動の推進

- 「子ども読書活動推進計画」を策定した市町は着実に広がり、地域における読書活動が計画的に推進される中、それぞれの地域の取組のよさを共有し、県全体の読書活動の充実につなげていくことが今後の課題です。
- 県立長崎図書館として、令和元年に「ミライon図書館」、令和4年に「郷土資料センター」が開館しました。今後は、市町立図書館や学校等との連携を深めながら、子どもたちへの読書支援サービスをさらに充実していく必要があります。
- 国立青少年教育振興機構が令和5年3月に示した「読書好きを育てるヒント（リーフレット）」には、地域の図書館で本を借りることの大切さが記されました。県教委調査（R5）において、月1回以上、地域の図書館を訪れている割合は、小学生45%、中学生26%、高校生21%という状況です。様々な取組を工夫しながら、地域の図書館へ足を運ぶ子どもの割合を高めていくことは、今後の有効な方策です。
- 令和5年1月に長崎県読書バリアフリー推進計画を策定しており、誰もが利用しやすい読書環境を整備すること、その環境を関係機関と連携して周知していくことは今後

の課題です。

- 公共図書館が、ふるさと教育をどのように支援するのかということも重要な検討課題です。
- 着実に増加していた図書ボランティアの数が、新型コロナウイルスの影響を受け、減少に転じました。改めて地域で子どもたちの読書活動を支えるボランティアの養成の機会や情報を共有できる体制づくりを行うなど、地域における読書の輪を広げていく必要があります。

<図書ボランティアの数>

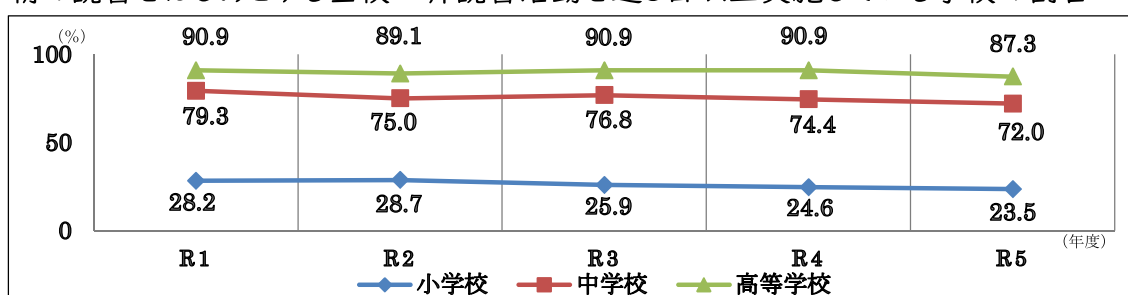


「図書ボランティアに関する調査(県教委)」

(3) 学校等における子どもの読書活動の推進

- 乳幼児期から小学校期における読書習慣の形成は、その後の読書活動を大きく左右するものであり、幼保小や地域とのつながりの中で取組を進めていくことが重要です。しかしながら、新型コロナウイルスの影響を受け、その取組が減少している状況があります。
- 朝の読書等の一斉読書の時間を設けている学校の割合は減少傾向にあります。特に、学習指導要領の改訂により授業時数が増加した小学校においては顕著であり、様々な工夫を通じて常に読みたい本が子どもの手元にある環境づくりが求められます。

<朝の読書をはじめとする全校一斉読書活動を週3日以上実施している学校の割合>



「学校運営に関する諸調査(県教委)」

- 学校では、主体的・対話的で深い学びや探究的な学びの充実が求められています。また、県教委調査(R5)によれば、「『知りたいことや興味・関心があるとき』『友だちのすすめ』『読書集会などの取組』が読書のきっかけになる」と子どもたちは回答しています。今後、子どもたちが友だちとの関わりの中で、主体的に読書活動に取り組む教育環境づくりが重要です。
- 読書バリアフリー推進計画の策定やGIGAスクール構想をはじめとするDX化の動きを背景に、誰もが読書に親しむことのできる環境を実現していくことが求められています。